

会議名	第2回 西ブロック会	<input type="checkbox"/> 全体会 <input checked="" type="checkbox"/> ブロック会 <input type="checkbox"/> 執行部会
開催日	平成26年10月30日(木) 14:00 ~ 17:00	
場所	厚木市総合福祉センター 5階 501会議室	
参加者	葵の園・大和、えびな、大磯幸寿苑、ききょう苑、グレース・ヒル湘南、ケアパーク湘南台、こまち、済生会湘南苑、相模大野、さつきの里あつぎ、しょうじゅの里大和、湘南の丘、神恵苑、清流苑、なごみの里、藤沢ケアセンター、ほほえみの丘、ぬるみず、ニューライフ湯河原、ふれあいの桜、ふれあいの渚、みかん、水ノ尾、ライフプラザ鶴巻、南大和老人保健施設、リバーイースト、わかば、スカイ 以上 28施設 33名 記録者：桐沢	
内容	<p>司会：こまち 柏木氏</p> <p>1.開会の挨拶 西ブロック長 ききょう苑 磯部氏</p> <p>2.ミニテスト実施 ・在宅復帰加算の算定要件 ・老人保健施設における在宅の定義</p> <p>3. 講義内容 『在宅強化型・支援復帰加算を取得している近隣施設の取り組みを知る』 発表者 ①済生会湘南苑 田中 真依子 相談員 ②みかん 石田 諒太 相談員 ③さつきの里あつぎ 蜂須賀 和人 相談員</p> <p>①済生会湘南苑(支援復帰加算算定) ○施設概要 済生会平塚病院3・4階にあり、54床 一般棟のみ。平塚病院が整形外科に力をいれている 退所にあたり、ケアマネジャー・相談員・看護科長が中心となっている H23年度の在宅復帰率は18%。ベッド稼働率を重視していた H24年8月～支援復帰型へ</p> <p>○気をつけていること ・対MSW→入所相談時、初めから「在宅が難しい」や「特養入所希望」と決めないで、本人・家族・施設で経過をみながら方向性を決めるようお願いしている。 ・対在宅 CM→在宅では無理と考えず、経過をみながら決めたいと伝える。また、在宅生活を継続するために施設の繰り返し利用を勧めている。(寒い・暑い時期に施設を利用等) ・最初の見学面談時→家族が本人の状況をどの程度理解しているか確認(意外と理解してない事が多い)家族の思いを受け止め、利用イメージがつかれるように心がけている。 3ヶ月の利用を勧める。 ・入所前面談→入所後の目標のすり合わせ、在宅パスを作成し、在宅復帰のイメージづくりをする。</p>	

内容

- ・入所中→家族が本人の状態を理解できるように積極的に話しかける。また、「家」にこだわらず、サ高住等も勧める。
- ・対職員→入所目的と目標を明確にする。入院しないようにケア向上の意識付けを心かけている。
- ・退所にむけて→退所時期が重ならないように調整し、また繰り返し利用を勧めている。

○ベッド回転率 運営上の問題

ショートステイ利用を増やしていきたいが、現状は利用希望が少ない。

②みかん(在宅強化型)

○施設概要

130床(4人部屋14室、2人部屋30室、個室14室)一般棟のみ

3年前に80床→130床へ増床

H26年2月～強化型へ

○強化型への取り組み

- ・もともと在宅復帰に力を入れていたが、強化型を取得するまではキツかった。
- ・算定日が属する月の前6ヶ月平均が50%超なので、在宅復帰率が良い月もあれば悪い月もある。
- ・導入時に在宅復帰の話をし、退所後の安心(1カ月後の再入所の確約)を説明する。
- ・入院者や療養型への転院をどれだけ抑えることができるか。

○在宅強化型のメリット

- ・老健の本来の目的を果たす → 本人・家族がよるこぶ
- ・現場のスタッフの意欲向上、職員のモチベーション向上
- ・収益が上がる

○在宅強化型のデメリット

- ・稼働率の低下
- ・現場が忙しくなる
- ・CWが退所後の訪問等で時間がとられ、仕事量が増える
- ・法人内に特養がありショートステイ利用料が特養より高く、利用率が下がる
- ・「みかんには長く居られない」と評判になり、長期入所希望の相談がない
- ・家族のニーズと合わない
- ・加算がつくことで従来型より利用料が高い

③さつきの里あつぎ(在宅強化型)

○施設概要

平成9年、厚木市で1番目の老健。100床(一般棟55床、認知棟45床、ショートステイ5床)

通所リハビリ、訪問リハビリを行っている

相談員6名(常勤5名、非常勤1名)

H25年8月～強化型へ

内容

○強化型に取得に向けた取り組み

- ・なぜ取り組もうとしたのか？ → 老健の本来の姿を取り戻す
- ・本人・家族へ積極的に関わる
- ・プロジェクトチームをつくる
- ・サービスの質の向上を目指す

○支援相談員としての役割とは

- ・利用者に対して「この人にはどのような援助をすればよいか」考えた
- ・家族のニーズを探していく
- ・家族と専門職との橋渡し
- ・制度の正しい理解

4.グループワークと発表

- ・取得をめざして在宅復帰会議を開催している
- ・経営者と相談員の考えに溝がある
- ・強化型施設に相談が行ってしまった
- ・待機者がいない
- ・法人から稼働率を求められる
- ・家族へ話の進め方が難しい
- ・病院から長期入所を勧められてしまう
- ・入所時、家族へのアプローチの仕方が大切
- ・実際、在宅のニーズはどのくらいあるか？
- ・法人の方針とギャップがある
- ・どうしても稼働率が下がり、在宅復帰への流れに乗りきれない
- ・始めるにあたり、職員の足並みがそろわない
- ・在宅復帰率より稼働率重視
- ・相談員として個人的に取り組んでみた
- ・相談件数が減っており、相談自体「在宅は無理」から始まる
- ・現場の意識付けが大切
- ・現場の雰囲気大切
- ・本人が「帰りたい」という気持ちを持つことが大切

5.情報交換会

テーマ「判定会について」

6.閉会の挨拶

支援相談員部会 部会長 スカイ 渡邊氏

7.アンケート記入・事務連絡

以上